

～子宮内膜炎検査～

EMMA・ALICE

先進医療

CD138+膣炎

自由診療

■ 胚移植が不成功の原因

着床しない、化学流産する場合、多くは受精卵の染色体異常が原因と考えられます。しかし、子宮内膜が原因の場合もあります。その中で、子宮内膜に慢性的な炎症がないかなどを調べる検査が子宮内膜炎検査です。

■ 子宮内膜炎検査は2種類

項目	EMMA・ALICE [先進医療]	CD138+膣炎検査 [自由診療]
保険・自費	先進医療。保険診療と併用可能。	自費。保険診療との併用は不可能。
検査①	ALICE検査	CD138検査
検査①の目的	どちらも慢性子宮内膜炎の診断に用いられる検査です。 適切な治療を行うことで着床率、妊娠率の向上を目指します。	
調べる内容	慢性子宮内膜炎に関与すると言われる10種類の病原菌の有無と割合	子宮内膜の形質細胞（免疫細胞）を特定し、慢性子宮内膜炎の有無を確認
検査方法	遺伝子解析	組織染色
診断の精度	慢性子宮内膜炎の原因菌を特定	慢性子宮内膜炎の状態を確認
検査方法	子宮内膜の細胞を一部採取。5分程度の処置中に多少の痛みを伴います。 * 採卵手術時の同時実施は、静脈麻酔下で痛みなく行うことが可能です。	
検査②	EMMA（子宮内膜マイクロバイオーム検査）	膣炎検査
検査②の目的	子宮内の菌を調べ、妊娠に有益な細菌叢のバランスを評価	慢性子宮内膜炎の原因となる細菌感染経路で多い膣の炎症の有無を検査
検査方法	子宮内膜の細胞を一部採取します。	膣の分泌物を一部採取します。
予約方法	診療予約システムにログインし、【子宮内膜炎検査】より、該当する検査をご予約ください。	
予約時期	子宮内膜を採取しますので、内膜が形成される時期以降にご予約ください。 月経周期が28日の方は月経11日目から25日目の間にご予約ください。次周期で胚移植を希望の方は早い時期に検査を受けてください。（陽性の場合は次周期の移植はできません）	
検査結果	約3週間	約2週間
陽性時の治療	陽性の場合は、原則として14日間抗菌薬を服用し、膣サプリメントを10日間使用した後、再検査を行います。	
注意事項	子宮内膜炎検査を行う周期は【避妊】が必要です。また、検査周期は「タイミング法」「人工授精」「胚移植」は実施できません。ただし、「採卵」は可能です。	

■ 対象者

良好な受精卵を複数回移植しても妊娠に至らない、反復不成功の方。ERA検査よりも前に検討する場合があります。（同時検討の場合もあります。）

■ 費用

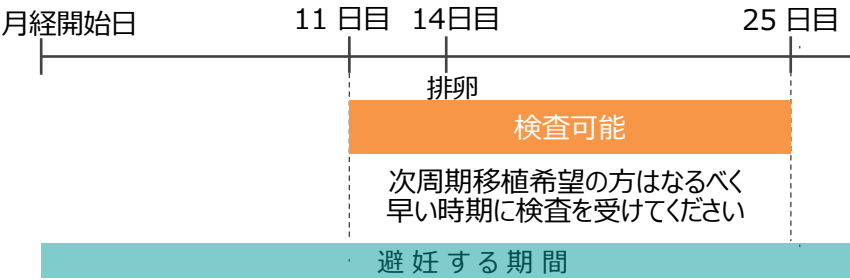
項目	EMMA・ALICE [先進医療]	CD138+ 膣炎検査 [自由診療]
保険・自費	先進医療。保険診療と併用可能。	自費。保険診療との併用は不可能。
料金	1回目 EMMA・ALICE 先進) 65,000円 自費) 71,500円	23,100円 * 再検査も同額です。
	再検査 EMMA・ALICE 先進) 32,500円 自費) 35,750円	
	再検査 ALICEのみ 先進) 24,000円 自費) 26,400円	

* 先進医療は税金がかかりません。自費は税込表示です。
* 再検査用の割引は、同一名義・同一IDの場合に適用されます。医療機関ごとに患者IDが異なるため、前の医療機関で実施した検査を当院で再度実施する場合は、当院では1回目の料金が適用されます。

<先進医療の助成と民間保険> 東京都を含めた各自治体には、先進医療に対して助成金制度があります。また、女性が民間医療保険の先進医療特約に加入している場合、契約内容に応じて保険・自費に関わらず給付金を受け取れる場合がありますので、各自で保険会社にご確認ください。

■ 検査可能時期

子宮内膜を採取しますので、内膜が形成される時期以降に検査を実施します。
例えば、月経周期が28 日の場合は次の通りです。



再検査の場合

- ① 抗生剤内服終了後、1 週間あけて上記の検査可能時期に再検査を実施してください。
- ② 抗生剤内服後、膣剤サプリメントを10 日間使用後、上記の検査可能時期に再検査を実施してください。
- ③ 膣剤サプリメントを10 日間使用後、上記の検査可能時期に再検査を実施してください。

* 次周期に胚移植・人工授精・タイミングが可能なのは、ALICE・CD138の検査結果が陰性の場合に限ります。
* 陽性の場合は原則 14 日間抗菌薬を服用し、10日間膣サプリメントを使用してから再検査をします。